

Minuma Shun Sai

# 見沼・旬彩

2024-25年冬号 vol.31

ゆたけ ゆたけ  
ゆたけき稲穂  
たわわ たわわ  
風にたわむ

黄金青原  
豊受けひ  
四方山清ら  
みくまりて

ながる ながる  
龍となる  
ゆたけ ゆたけ  
ゆたけき見沼

立つ白鷺よ  
いついつまでも

蛍火舞うこの地にうたう

作詞：池町みほろ



上山口新田の米づくり「NPO見沼の里」の「収穫感謝の御神事」 2024年10月20日



▲中山神社 吉田宮司



撮影：風間曜さん

## 冬のごはん 七草がゆ

古代ローマ人、アキビウスの料理帖に登場した雑穀類のお粥。豚肉とワインで、コトコト！簡単なレシピだそうです。

五穀米1カップ、水3カップ、強火5分で吹いてきたら、中火で5分、残り5分は、弱火でコトコト。湯がいてあら切りにして絞った菜葉と適量の塩を混ぜて少々蒸らします。今回はゴギョウ(母子草)を使用しました。



▲ゴギョウとは、黄色い花咲く母子草



上山口新田地区の農地の適性管理と環境保全型農業を支える

## 「中川用排水維持管理組合」と 「中川環境保全会」

### 中川用排水維持管理組合

見沼たんぼ地域で、まとまった水田が残っている上山口新田地区。

その用水路や排水路の維持・保全管理を行っている団体が「中川用排水維持管理組合」です。春～夏にかけての用排水路の保全・維持管理作業を約30名の会員で、定期的に行っています。見沼代用水路からの水が、個々の水田にきちんと流れ配分され、また排水が滞りなくできるよう「用排水路の維持・管理・修復」が仕事で、美しい上山口新田地区の水田を支える「地域の力」です。

### 中川環境保全会

中川環境保全会は、農林水産省の環境保全型農業対策室が、平成19年(2007年)から推進する「環境保全を重視した農業生産」を上山口新田地区で推進する団体です。



▲上山口新田地区の水田とさいたま新都心のビル群との「コントラスト景観」と小山吉男組合長さん

会員は、中川用排水維持管理組合のメンバーに、有機農業生産などに積極的に取り組んでいる農業・市民団体のメンバー 20名余を加えた50名程の団体です。

中川用排水維持管理組合の組合長であり、中川環境保全会の代表も兼ねている小山吉男さんは、「今後、地域の自治会や市民団体との共同活動を広げる」とともに、「水利施設などの長寿命化」などにも取り組んでいきたいとの意向です。

さいたま市を代表する「都市と農業の共存地区の環境や景観を支える力」である両団体の活動の今後の発展を期待するとともに、参加されている方がたに敬意を表するものです。



▲八つ頭

見沼地域の採れたて野菜が新鮮で美味しく、一度に鍋いっぱいに作ります。煮詰まらしたら水で薄めながら、最後はおじやでしょうか。八つ頭は、たっぷりのかつおだし汁で甘めに。良い塩梅の加減が難しいのですが、里芋とはまた違う美味しさがあります。



▲ほくほくの八つ頭



▲野菜たっぷり



▲おじやは身体が温まります。

## MINUMA EVENT INFORMATION

### 2024年度 年末農産物即売会について

2024年12月27日(金) 10:00~13:00(雨天決行)

さいたま市役所東側ひろば

さいたま市内の青年農業者さんが育てた、正月用の新鮮な農産物の即売会を開催します。人気のあるシクラメン等の季節の花や、日頃見かけない珍しい農産物など、色とりどりに販売されます。おせち料理での縁起物、さいたま市特産の「くわい」も販売します。また、農家さんが摘みたのし餅も販売の予定です。



▲農産物即売会行列



▲新鮮野菜

### 地産地消(トレトリ) サポーター募集!

さいたま市では「さいたまでトレたものを生活にトリいれよう＝“トレトリ”」をキャッチコピーに、地産地消を推進しています。いつでも、好きなときに、できる範囲で、気軽に“トレトリ”を応援するサポーターのことです。

<https://www.city.saitama.lg.jp/005/002/002/p117811.html>



▲登録はコチラ

### 第51回 埼玉洋蘭展

2025年1月23日(木)~26日(日) 9:00~15:30

市民の森・見沼グリーンセンター2F特設会場

主催:埼玉洋蘭会 後援:埼玉県、県議会、さいたま市市議会

2024年に4年ぶりの開催となり、今回は第51回となります。埼玉洋蘭会会員が栽培したカトレア、コチョウラン、デンドロビューム等500点近くの洋蘭が展示されます。入場無料。

写真は2024年1月開催時の入賞作品例(埼玉洋蘭会HPより)





## 森田園芸

11月16日(土)市民の森・グリーンセンターで行われた農業祭に、花卉園芸組合員として出店されている森田園芸さんをお訪ねしました。

森田園芸さんは、ご両親の博さん、とし子さんから代替わりし、現在15代目に当たる智之さん、真喜子さんご夫妻が中心となり経営されています。

取扱品目は季節の花壇苗、そして5年前からは当時人気のあった切り花フリージアに代わり、イチゴの生産(あまりん・べにたま)に取り組むなど、地域の環境変化に対応した業容の改革にも熱心に取り組んでいます。

2025年4月には、健康福祉センター東楽園が、サーマルエネルギーセンターの余熱を有効活用した全世代型健康増進施設として生まれ変わる等、地域の集客力が大きく改善することが期待されて



▲園主の森田智之さん



▲農園で育苗中の花壇苗



▲農業祭の花卉園芸組合の売り場

おり、智之さんご夫妻の取り組みにも寄与することになりそうです。

見沼区膝子586 TEL.048-683-0863 年中無休

## (株)オーガニック・ハーベスト丸山

丸山文隆さん(明治大学農学部卒・丸山家11代目)は、大学卒業後、総合園芸会社に勤務、1995年妻・恵美子さん(東京農業大学卒業後スイス留学)と結婚。その後2006年まで公務員として農業振興と緑のまちづくりに従事し、同年「オーガニック・ハーベスト丸山」を設立、2023年に株式会社となりました。企業理念として「楽しく儲かる農業」「食育、環境、命の繋がりを伝える」そして「農のある幸せな都市づくり」を目指して愉快的仲間たちと日々奮闘しています。さいたま産の発酵鶏糞を主な肥料とし、見沼の環境を活かした低農薬栽培で「見沼の絆」ブランドの安心安全野菜を提供しています。

また、子供たちや地域の皆さんとともに農業体験会も開催しています。

この他、お祭りイベントや公園マルシェなどでも販売しています。随時、職員さん募集しています。



▲丸山ご夫妻(中央)と従業員の皆さん(自宅直売所)



見沼区蓮沼1694 TEL.048-687-0140

購入できる店:大宮高島屋、ヤオコー蓮沼店、ヤオコー盆栽町店、生鮮市場TOPビバモールさいたま新都心店、マルエツ東門前店、JAさいたま木崎グルメランド、マミーマート南中野店、オーガニック・ハーベスト丸山直売所(自宅に併設)



## 見沼のお店紹介!

### ちゃこ畑の朝ごはん

「ちゃこ畑の朝ごはん」は、見沼で育てた無農薬無化学肥料の野菜と平飼卵を使った、日曜日限定の朝ごはんのお店です。

切り盛りするのは田中あやさんと小暮久子さん。ずっと畑をやってみたくて思っていたというおふたりが、見沼の三崎で畑を始めてみたらその野菜のおいしさと、畑と向き合うことから体感した様々な思いを、楽しくおいしくみんなにも伝えたいと、お店をオープンしました。おふたりとも元々別の仕事を持っていて、でも週一回の朝ごはんならできる!と、毎週、畑の収穫に合わせて考えたメニューを朝ごはん膳として提供しています。旬の野菜を生かしたやさしい味わいの品々は、朝の体に心地よく染み渡ります。

場所は、北浦和駅東口クイーンズ伊勢丹の駐輪場の脇、居酒屋さんの店舗を日曜日の午前中だけ借りています。大きな暖簾が目印。10人も入れば満席の、カウンターだけのこじんまりとした店内は、気さくなスタッフのみなさんとお客さんとのさりげないやりとりが楽しそう。ひとりでふらりと訪れても気楽にくつろげる、そんなお店です。

▶大きな暖簾が目印



▲日曜日限定の朝ごはん



▲かわいいイラストのメニュー



▲右が小暮久子さん、中央が田中あやさん

浦和区北浦和1-6-17 営業時間:日曜8:00 ~ 12:00

Instagram:chakobatake.asagohan

## 見沼のお店紹介!

### カフェドラフェット (CAFÉ de LAFET)

～非日常の隠れ家空間で、フランスの郷土料理ガレットを

店主の徳永貴臣さんがヨーロッパ旅行で見た、フランスの田舎に建つような白い一軒家を手作りして再現し、看板メニューはフランス北西部の郷土料理「ガレット」としました。独自ブレンドのそば粉を前日から仕込み、表はカリッと、中はモチツとした生地の上に、分厚い自家製ベーコン、仏産チーズ、目玉焼きと青菜で仕上げています。そして店内はアンティーク雑貨で彩られ、おとぎの世界に迷い込んだようなこだわりのインテリアも味わってください。

見沼区御蔵1127-1

TEL.048-797-7743

定休日:月・火曜日

営業時間:12:00 ~ 16:00

ディナーは完全予約制 駐車場:7台



▲住宅街に突如現れる白い洋館



▲入口



▲こだわりの店内



▲ガレットベーコンセット(他にソーセージ、プロシュート、アンチョビシュリンプ、サーモン等)



## オリジナルと多品種のシクラメン生産・直売「猪原園芸」

交差点・宮ヶ塔西から近い道路沿いの大きな看板が目印です。50年以上にわたり、生産販売しています。父親からの2代目であり、35年前からシクラメン生産と販売を行い、現在、約50種の多品種を扱っており、昔ながらの在来種から新しい品種までお気に入りのお花を探することができます。

大きいサイズ8,000鉢とミニサイズ3,000鉢です。特に、今年の推薦品種は種から蒔いた可愛いらしい赤の「ミニヨンブッシュ」と花が無数に咲き誇っている臙脂色の「エッジ」です。埼玉県が育成した芳香シクラメンの販売も行っています。今年は猛暑で花咲きが遅かったですが、現在は順調にきています。暑さ対策は品種改良等で対応しています。シクラメン関連の施設は、9棟のビニールハウスを含め、約800坪です。リピーターや口コミによる顧客が多く、贈答品や宅急便もかなりの割合です。ご夫婦と母親、パートの方でおこなっています。奥さんは、シクラメンの品質管理が上手であり、シクラメンの栽培にも長けています。



▲園主の猪原茂樹さんと「オーロラ」



▲推奨シクラメン「ミニヨンブッシュ」(上)と「エッジ」

見沼区東宮下830

ご注文・お問い合わせTEL.048-683-2672

営業日:11月10日～12月31日

取扱品目:シクラメン8,000鉢(6号～8号鉢)、ミニシクラメン3,000鉢(2.5号～4号鉢)

## MINUMA New Face/ 新規就農者「農園くるり」才津桂子さん



▲園主の才津桂子さん

大学卒業後、アパレル会社、食品会社の営業や事務職を経験しました。結婚後は、2人の男の子を出産、仕事と家庭の両立に日々追われていました。

そんな中、自然が豊かで、子育ての環境が良さそうという理由で、さいたま市に引っ越し、近くに「見沼たんぼ」という広大な畑があることを知りました。広島の実家はイチゴ農家であり、農業は身近な存在であったため、農業をやってみたいと思うようになりました。

思い切って会社を退職し、さいたま市の農業研修に研修生として1年間参加して、農業の基礎を学

びました。同時期に見沼たんぼで有名な有機農家さんを訪ね、パートとして働きながらその農家さんから畑を借りて野菜を栽培し、少しずつ野菜の販売を始めました。環境や体に優しいという理由で有機野菜を栽培しています。

農業では失敗することもあるとあり、日々勉強です。会社員時代とは違い、畑では自然の美しさや四季の移りを感じられ、野菜を食べてくれた方からは美味しかったと喜んでもらい、農業は大変だけど楽しいという気持ちが大きいです。

これから、畑を広げて、たくさん野菜を販売したい、収穫体験をしたい、直売所を作って気軽に有機野菜を買ってもらい、地域の方々ともっと繋がっていきたくと思っています。

農園くるりの「くるり」には、循環という思いが込められています。地域の方々と繋がることで、良い循環が生まれるようにしていきたいです。

緑区片柳27

納品先:カインズ浦和美園店、有機の里与野本町店、喫茶むくむく

2025年  
初詣

総持院・國昌寺から氷川女體神社へ

2025年1月4日(土) 集合:東浦和駅・改札口前広場9:30

募集:25名 申込締切:12月31日(火)

参加費:300円(路線バス代別途)

見沼たんぼの三つの社寺にお参りし、2025年のご多幸を祈念するとともに、見沼たんぼの新年の晴れやかな空気と歴史・文化、冬の自然に親しんでいただきたく開催します。(初詣時の「密」を避けるため、1月4日の開催としました。)

◎コース:集合9:30 東浦和駅9:48⇒総持院バス停⇒総持院⇒緑のトラスト1号地⇒國昌寺⇒氷川女體神社⇒見沼氷川公園⇒芝原小バス停11:43⇒東浦和駅12:00 距離2km程度

◎申込先:北原典夫

メール:minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684



▲氷川女體神社

## 見沼たんぼ地域の「斜面林保全」をめぐる状況

### 1.危機に瀕する見沼たんぼ地域の斜面林との認識と「調査・要望活動」の展開

- ① 2014年から2016年にかけて加田屋地区や片柳地区で大規模な斜面林開発が進行。
- ② 2016年、市民団体が共同で見沼たんぼの114か所の斜面林を調査。5年間で14か所5.6haが伐採・開発。残る斜面林が100か所で54ha。このままでは、50年間で消滅の危機。
- ③ 2017年、市民団体が共同で埼玉県知事に対策を要望。
- ④ 県は見沼たんぼ地域の斜面林保全に対する「助成制度」を創設(2019年)。
- ⑤ 斜面林の買収費の1/3以内、年間で1億円以内、10年間、総額10億円以内。

### 2.「染谷・特別緑地保全地区」と「さぎ山記念公園の斜面林伐採計画」をめぐる

さいたま市は市としての緑地保全予算に埼玉県の助成金を加えて用地取得を推進。

#### しかし……。①特別緑地保全地区での「芝生広場」開発問題

- ① 2021年、特別緑地保全地区での「広場」開発のため、樹木伐採費として3,410万円の予算案。
- ② 市民による「染谷ふくろうの森保全計画検討チーム」の発足と反対署名活動等の推進。
- ③ さいたま市が、生物多様性基本法に基づく「生態環境調査」を実施。



▲染谷・特別保全緑地

- ④ 特別緑地保全地区内での「5,000㎡の広場」は廃止。隣接した都市公園等を「芝生広場」。

#### (2)さぎ山記念公園の斜面林を伐採しての「アスレチック遊具」整備問題

- ① 2024年、さぎ山記念公園の斜面林を伐採して5基のアスレチック遊具の整備計画を発表。
- ② 「さぎ山記念公園の自然環境を考える会」の発足。都市公園課や指定管理会社と交渉中。

市民の保全要望活動を基礎に、さいたま市等との交渉がまだまだ必要です。

# 今号に掲載された、見沼たんぼ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぼ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌  
「見沼・旬彩」2024-25年 秋号 vol.31

発行：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail: [minuma@minuma-miraiisan.jp](mailto:minuma@minuma-miraiisan.jp)

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ

発行日：2024年12月5日



We  
Love  
Minuma

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。